



HEPHAIST

東証スタンダード：6433

2026年3月期 第2四半期（中間期）決算説明会

12月4日(木)

ヒーハイスト株式会社

【第64期 経営方針】

persist

目次

- 1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要**
- 2. 2026年3月期 業績予想**
- 3. 中期経営計画の遂行・実現**
- 4. 直近のTOPICS**
- 5. 参考資料**
- 6. 今後の展開**

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要

- **連結売上高：8億4千6百万円** 前年同期比 2億2千9百万円 (21.3%) 減
- 直動機器は、産業用機械関連の需要回復の遅れや中国市場の受注停滞が継続したこと等の影響を受け、売上高 5億4千6百万円（前年同期比21.3%減）
 - 精密部品加工は、レース用部品のリギュレーション変更に伴うスケジュールの遅れ等があり、売上高 1億7千万円（前年同期比40.5%減）
 - ユニット製品は、真空関連装置向けステージ製品の売上が増加したことに加え、中国市場における医療用分析機器及び半導体関連装置向け球面軸受の需要に対応したことにより、売上高 1億3千万円（前年同期比35.6%増）

- **連結経常損失：1億7千6百万円** 前年同期比1億2百万円 (一%) 減
- 売上高の減少に加え、原材料価格の高止まりにより製造原価が増加
 - 株主優待費用を新たに計上

- 配当予想の修正 1株当たり2円から無配に修正
- 株主優待制度の内容変更
・1,000株以上デジタルギフト5,000円分に変更
・2027年以降は1年以上継続保有

- 売上高は、不安定な国際情勢や為替相場の動向、国内物価上昇、中国経済の停滞などの依然として景気の下振れリスクが続いている、対前年比及び予想比で減少

単位：百万円	2025年3月期 第2四半期 (中間期) 実績	2026年3月期第2四半期（中間期）				対前年同期増減額 (前年比)	対期初予想増減額 (予想比)		
		期初予想		実績					
		金額	構成比	金額	構成比				
売上高	1,076	1,126	100.0%	846	100.0%	△229 (△21.3%)	△279 (△24.8%)		
売上総利益	159	255	22.7%	110	13.1%	△48 (△30.6%)	△144 (△56.7%)		
販管費及び一般管理費	234	264	23.5%	253	29.9%	19 (8.2%)	△11 (△4.2%)		
営業損失	△74	△8	△0.8%	△142	△16.8%	△67 (- %)	△133 (- %)		
経常損失	△74	△13	△1.2%	△176	△20.9%	△102 (- %)	△163 (- %)		
中間純損失	△58	△8	△0.8%	△219	△26.0%	△161 (- %)	△211 (- %)		

- ・ 売上のトップラインが低迷した分、年間累計で損失計上
- ・ 直動機器は、スマート生産を取り組んで参りましたが、需要回復の遅れや中国市場からの受注停滞が継続したこともあり減少
- ・ 精密部品加工は、レース用部品の売上が減少
- ・ ユニット製品は、国内生産設備にステージ製品が増加し、中国市場での装置向けに球面軸受が増加

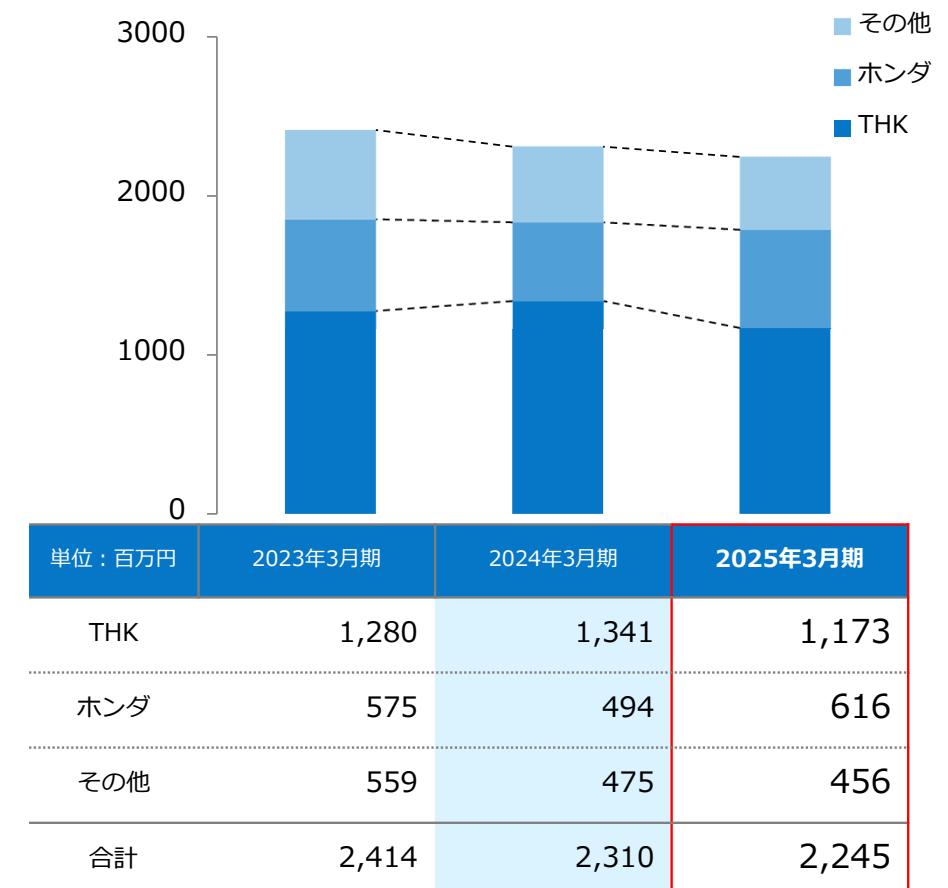
単位：百万円	2025年3月期 第3四半期	2025年3月期 第4四半期	2026年3月期 第1四半期	2026年3月期 第2四半期	2026年3月期 上期
売上高	649	519	464	382	846
営業利益又は営業損失	23	△70	△49	△92	△142
経常利益又は経常損失	17	△132	△58	△118	△176
四半期純利益又は四半期 (当期)純損失	9	△154	△45	△174	△219

品目別	売上高	構成比								
直動機器	362	55.9%	308	59.4%	275	59.3%	271	70.9%	546	64.5%
精密部品加工	233	35.9%	161	31.1%	104	22.5%	65	17.0%	170	20.1%
ユニット製品	53	8.2%	49	9.5%	84	18.2%	46	12.1%	130	15.4%
合計	649	100.0%	519	100.0%	464	100.0%	382	100.0%	846	100.0%

売上高 及び 主要売上先の推移

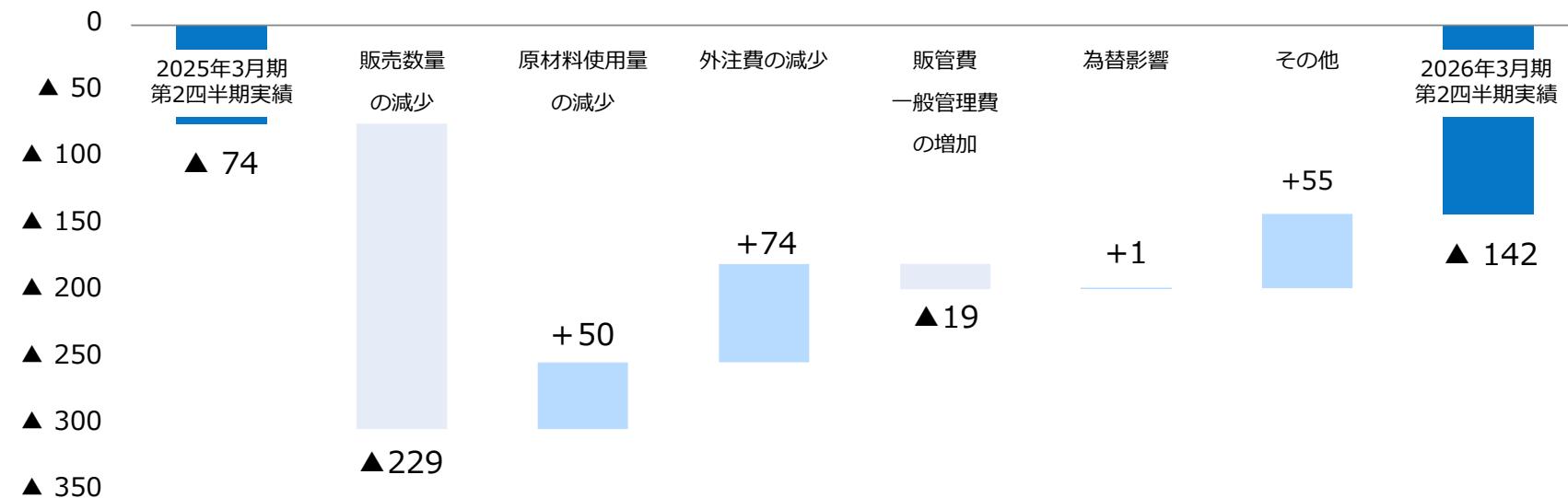
【第64期 経営方針】
persist

- 主要売上先からの受注が減少
- 中国市場における医療用分析機器及び情報通信機器の製造装置向けに売上は増加傾向
- レース用部品の売上減少



- 売上高の減少に加え、原材料価格の高止まりにより製造原価が増加し、営業利益が前期比減少

(単位：百万円)



貸借対照表

【第64期 経営方針】
persist

単位：百万円	2025年3月期 (実績)	2026年3月期第2四半期 (中間期) 実績	増減額	コメント	
流動資産合計	2,394	2,179	△215	棚卸資産 売上債権 現金及び預金	98百万円増 172百万円減 148百万円減
固定資産合計	2,613	2,623	10	有形固定資産 繰延税金資産	21百万円増 38百万円減
資産合計	5,007	4,802	△204		
流動負債合計	859	944	84	仕入債務 短期借入金 未払消費税等 株主優待引当金	36百万円減 250百万円増 56百万円減 45百万円減
固定負債合計	1,329	1,272	△57	長期借入金 リース債務	168百万円減 83百万円増
負債合計	2,188	2,216	27		
純資産合計	2,818	2,585	△232	※連結自己資本比率53.8%	
負債純資産合計	5,007	4,802	△204		

単位：百万円	2025年3期期 (実績)	2026年3月期第2四半期 (中間期) 実績	コメント
営業活動によるC F	△183	△141	(プラス面) 売上債権の減少・減価償却費の増加 (マイナス面) 税金等調整前中間純損失・棚卸資産の増加
投資活動によるC F	△51	△44	有形固定資産の取得による減少
財務活動によるC F	△99	42	長期借入金・リース債務の返済 短期借入金の純増額
現金及び現金同等物に係る 換算差額	8	△6	
現金及び現金同等物の 増加額(△は減少)	△325	△148	
現金及び現金同等物の 中間期末残高	559	410	

2. 2026年3月期 業績予想

- 自動化関連の需要に向けて、強化した生産設備の生産能力を生かした直動機器のスマート生産を実践し、利益率の低い形番のスクラップ・アンド・ビルトを実行し、利益率向上見込む

単位：百万円	2025年3月期 実績	2026年3月期		2026年3月期 修正予想	前期比
		上期 実績	下期 予想		
売上高	2,245	846	756	1,603	△28.6%
営業損失	△121	△142	△74	△216	-%
経常損失	△189	△176	△118	△295	-%
当期純損失	△203	△219	△120	△340	-%
売上高営業利益率	△5.4%	△16.8%	△9.8%	△13.5%	△8.1P

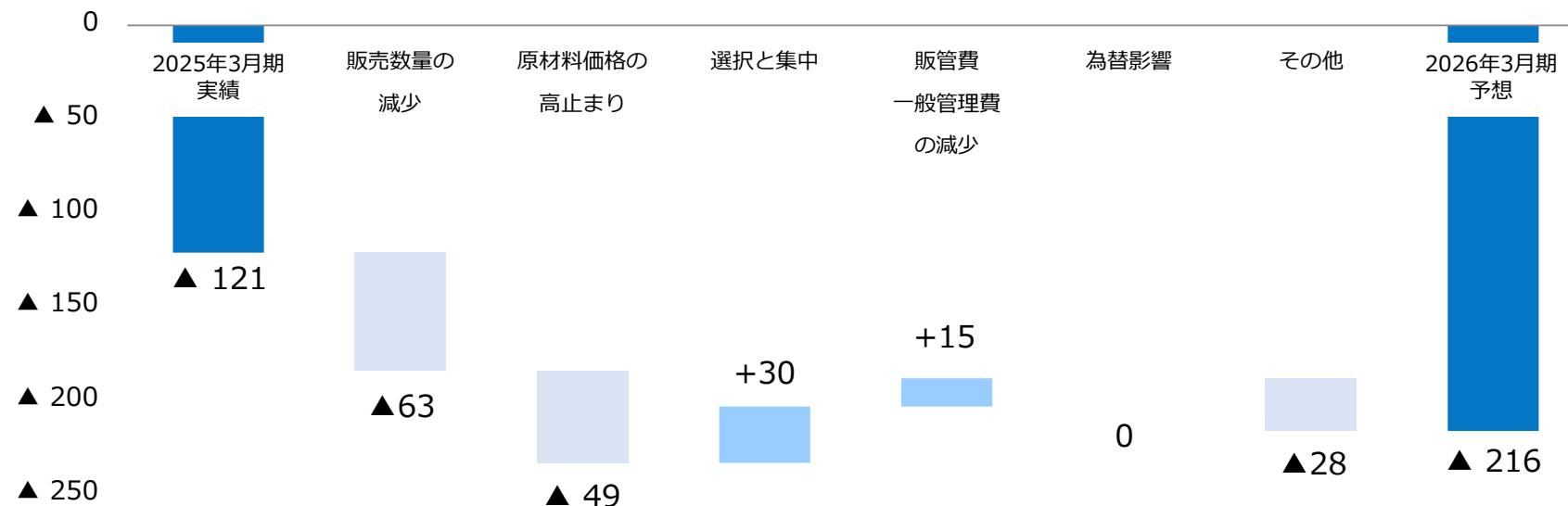
※2026年11月12日に「2026年3月期第2四半期(中間期)連結業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ」を発表

品目別	2025年3月期 実績	2026年3月期		2026年3月期 修正予想	前期比
		上期 実績	下期 予想		
直動機器	1,365	546	437	983	△28.0%
精密部品加工	680	170	208	378	△44.3%
ユニット製品	198	130	110	241	21.3%
売上合計	2,245	846	756	1,603	△28.6%

2026年3月期 営業利益予想増減要因

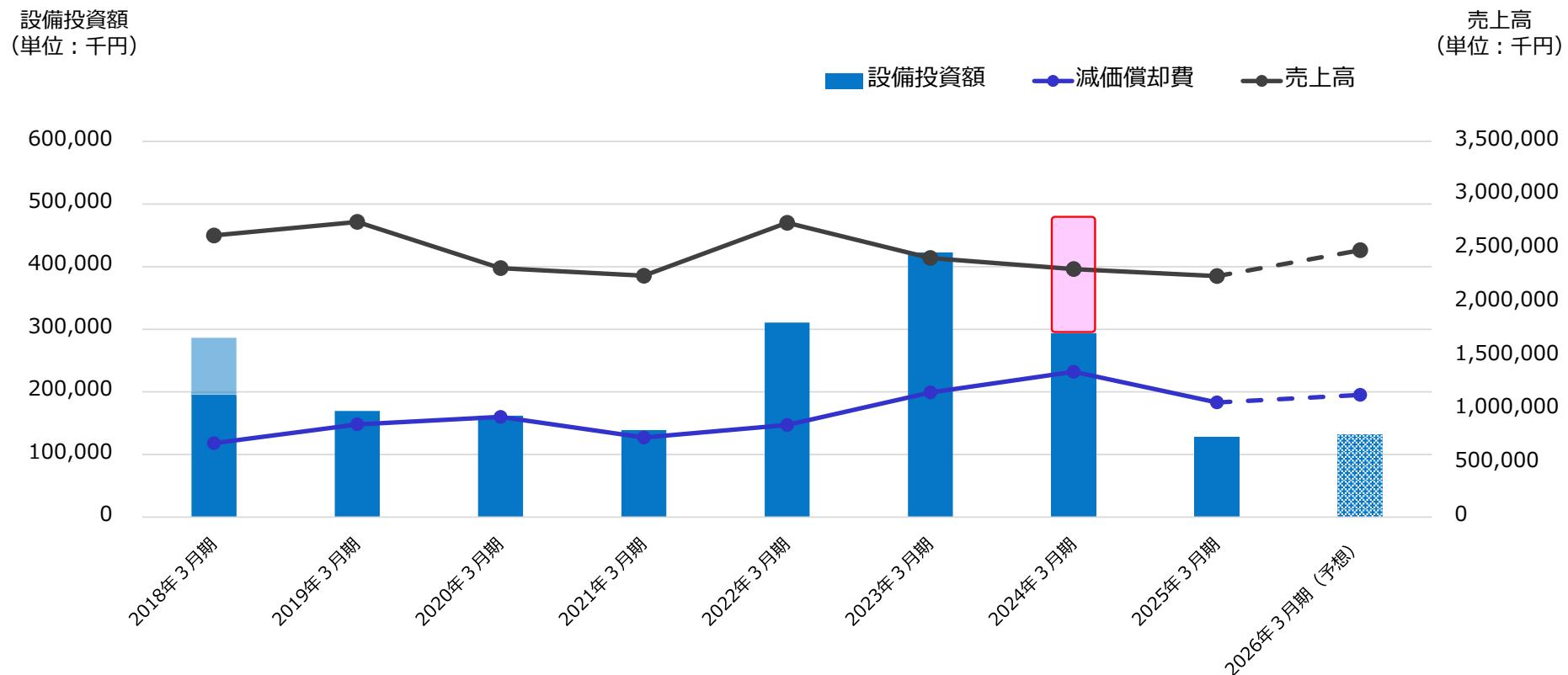
- 半導体需要の高まりや人手不足に伴う自動化に向けた設備投資の増加などにより、経済活動の正常化に向けた動きは継続していくものと想定
- 為替社内レートは、人民元21.20円

(単位：百万円)



設備投資推移

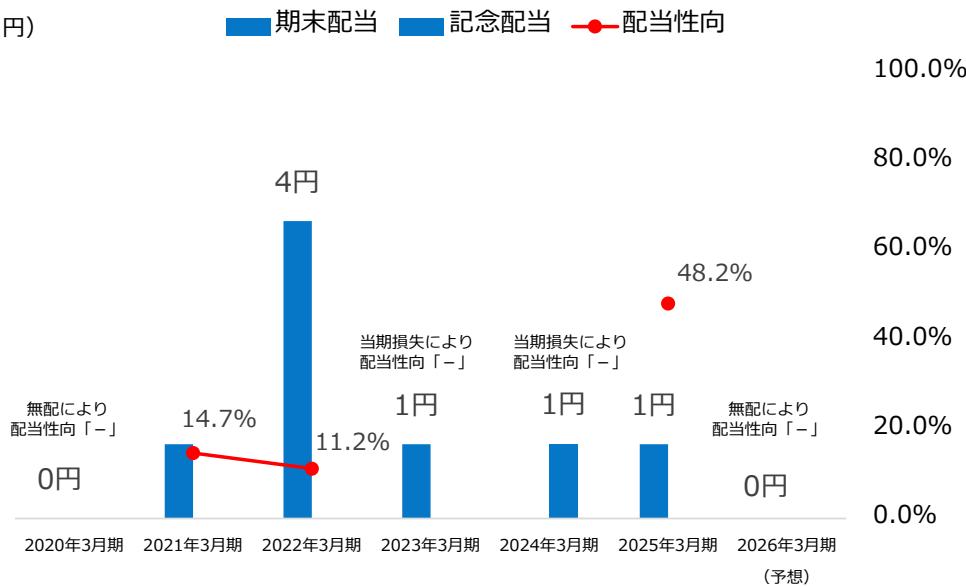
- 2023年3月に直動機器増産のための工場A棟の稼働を開始し、中期計画に必要な設備投資を実行し、生産の増強を実施
- 2025年3月期の期首から減価償却方法を定率法から定額法に変更しており、その結果、減価償却費が減少し、平準化



<配当予想の修正>

- ・株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと認識し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、配当を行うことを株主還元に関する基本方針としております。
- ・当期の期末配当予想について、2026年3月期通期連結業績予想数値の修正を踏まえて慎重に検討した結果、当初予想の1株当たり2円00銭から無配とさせていただきました。

(単位：円)



<株主優待制度の内容変更>

・変更の理由

当社は、株主の皆様の日頃のご支援に感謝の意を示すとともに、当社株式に対する投資魅力を高め、より多くの皆様に当社の事業へのご理解を深めて頂くことを目的として株主優待制度を実施しております。

この度、株主還元の公平性を目的とする配当等による利益還元とのバランス、また、今後の業界動向を見据えた成長投資への再配分等を考慮し、基準日2026年3月末日（優待発送6月末分）より以下のように変更させていただきます。

・変更の内容

【変更前】

保有株式数	継続保有期間	優待内容
100株以上	-	QUOカード 3,000円分

【変更後】

保有株式数	継続保有期間	優待内容
100株以上1,000株未満	-	なし
1,000株以上	1年以上(※1)	デジタルギフト(※2) 5,000円分

※1. 今期のみ基準日2026年3月末日時点の株主名簿に記載又は記録された当該株式数を保有している株主様を対象といたします。また、来期以降は継続保有期間1年以上とし、株主名簿基準日（3月末日及び9月末日）の株主名簿に同一株主番号で連続3回以上の記載、又は、記録された当該株式数を保有している株主様を対象といたします。

※2. デジタルギフトの内容につきましては、QUOカードPayを予定しております。

・変更の時期

2026年3月末の基準日に株主名簿に記載された株主様より適用いたします。

3. 中期経営計画の遂行・実現

- 現在進めている中期計画『Hephaist Vision65』を着実に遂行することにより、各投資の成果を出し、2027年3月期には売上高2,863 百万円、営業利益139 百万円の達成を目指します。

中期経営計画 2024 年3月期（第62 期）～2027 年3月期（第65 期） 売上高28 億円へ

	2024年3月期		2025年3月期			2026年3月期		2027年3月期
	計画	実績	計画	修正計画	実績	計画	修正計画	計画
売上高	2,271百万円	2,310百万円	2,452百万円	2,257百万円	2,245百万円	2,486百万円	1,603百万円	2,863百万円
売上総利益	315百万円	315百万円	505百万円	352百万円	333百万円	569百万円	223百万円	627百万円
売上総利益率	13.9%	13.7%	20.6%	15.6%	14.9%	22.9%	13.9%	21.9%
営業利益または営業損失	▲163百万円	▲158百万円	23百万円	▲115百万円	▲121百万円	68百万円	▲216百万円	139百万円
営業利益率	-	-	1.0%	-	-	2.8%	-	4.9%

- 中期経営計画については、毎期ローリング方式で更新して参ります。
- 当初の計画通り、設備投資・生産数量の確保による安定生産、人的資本投資等への成長投資を継続し、増産に対する生産体制を整え、戦略在庫も積んできたことにより、受注回復に備えております。
- 製品群の見直し（スクラップ＆ビルド）・・・低採算製品からの撤退を検討し、リソースを高収益製品に集中することを進め、採算性を向上させる予定です。
- 2024年3月期は、計画に比べ受注回復が遅れたこと、原価が増加したことにより損失を計上しました。
- 2025年3月期は、上半期まで受注回復が遅れ、下期受注増の見込でありましたが需要上階全体の回復にいまだに時間を要するため、損失を計上いたしました。※2024年11月12日発表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」にて2025年3月期通期業績予想を修正
- 今後の計画については必要に応じて見直しを検討してまいります。

＜中期経営指標＞

収益性：連結営業利益率 10% 以上 → 目標：2027 年 3 月期達成

効率性：連結 ROE 8% 以上 → 目標：2027 年 3 月期達成

配当性向：連結配当性向 30%

＜A.直動機器の増産増販＞

- 成長戦略として中期的な自動化関連の需要増加に対応するため、「スマート生産プロジェクト」の一環とする設備投資を行い、生産を上げ、売上を伸ばして行きます。
- 利益率の改善は、設備投資のピークアウトによる償却費の減少及び、電力費削減等のコスト削減に加え、生産数量を確保し、安定的に生産することで、固定費率の減少を実現することにより利益回復を図って行きます。
- 半導体市場は、2024 年後半は再び徐々に市況が良くなっていき、2025年には過去最高の市場規模となる予想。
- 海外展開、協業への取組。



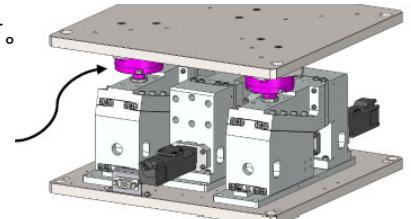
＜B.精密部品加工の売上確保＞

- ホンダグループのモータースポーツ参戦のレース用部品供給継続による収益を確保します。
- 強みを生かした新たな精密部品受託加工への取組。



＜C.ユニット製品の販路拡大＞

- 仕様の標準化による設計効率化及びお客様への対応時間を短縮し、販売強化します。
- 新製品NAF HW シリーズの販売を拡販し、更に製品ラインナップ増加を図ります。
- 新たな海外市場への展開を図ります。



<株主還元の強化>

- ・上場20周年記念配当の実施。
- ・配当方針として、連結配当性向30%以上とする。
- ・自己株取得を有効に活用し、人事戦略等に使用する。
- ・社員持株会奨励金付与率を5%から50%に増額し、社員の株式購入機会の増加を促進し、安定的な株式購入需要を確保することで、出来高の増加に寄与し、株式市場での流動性向上を図る。

<IR活動の充実>

- ・より多くの投資家の皆様に当社の情報を伝えするため、今まで以上にIR活動を強化して参ります。具体的には、以下の取組を中心に情報発信をより一層推進して参ります。
- ・決算説明資料を「ログミーFinance の説明書き起こし」により、内容のより深い事業理解へ繋げ、同時に、多くの投資家に配信し、これまで以上に投資家へ情報の裾野を広げていく取組を進めています。
- ・スポンサードレポートとしてFISCO企業調査レポートを開示しております。
- ・自社HP等でのIR/PR情報発信の強化
- ・1 on 1 ミーティングの実施等

● サステナビリティに関する取組

- ・太陽光発電の設置（年間発電量約162,000kwh、CO₂排出量年間約60.65tの削減を見込む）
- ・廃棄物を固形燃料へ再利用「RPF」（Refuse Paper & Plastic Fuel）
- ・フードドライブ事業参加（食品廃棄ロスを減らし、子ども食堂へ食品を寄付）
- ・国際協力活動支援（チャイルド・スポンサーシップ）（貧困に苦しむ支援地域の環境整備を支援）
- ・紙のエコ化（卵の殻のリサイクル）エコペーパー「CaMISHELL®」の使用

● 人的資本経営を意識した取組

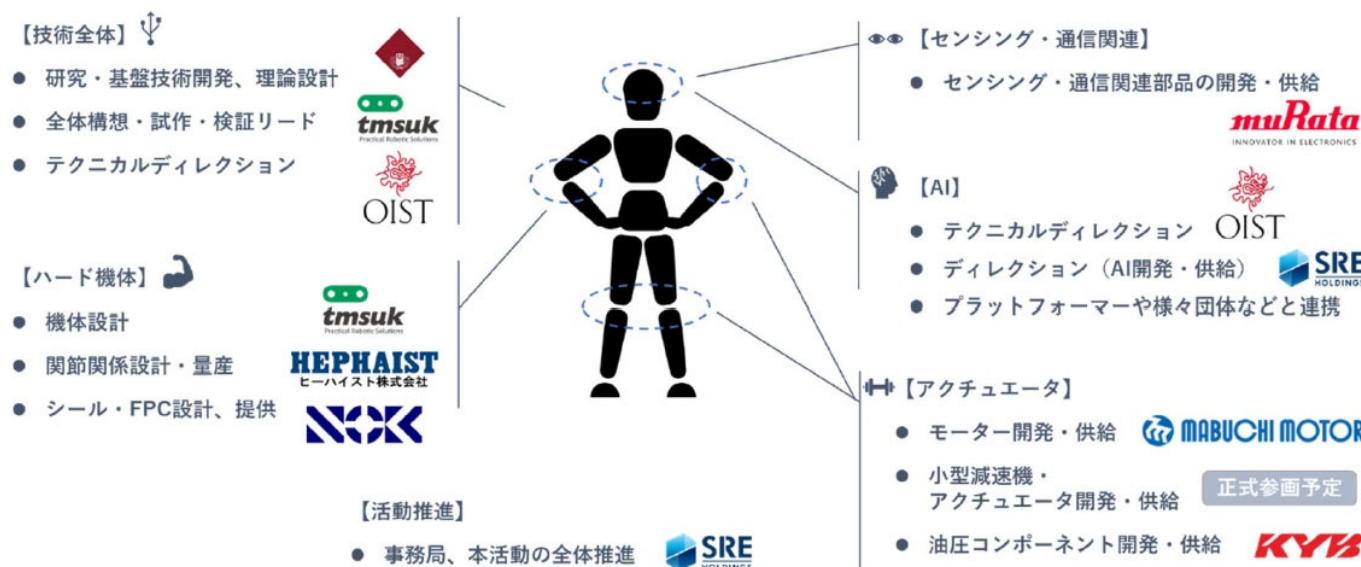
- ・事業推進の核となる人材の育成
- ・教育制度の拡充
- ・海外人材の活用
- ・女性管理職の登用
- ・男性の育児休暇取得
- ・奨学金返還支援手当の導入
- ・社員持株会奨励金付与率を5%から50%に増額し、福利厚生の充実により、社員と会社とのエンゲージメント向上を高め、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上。

● パートナーシップ構築宣言で協力会社との関係強化

4.直近のTOPICS

<「KyoHA（京都ヒューマノイドアソシエーション）」に参画>

- 2025年10月2日に発表されました、早稲田大学、株式会社テムザック、株式会社村田製作所、SRE ホールディングス株式会社が、日本のヒューマノイドロボット産業の再興を目指す新団体として設立した一般社団法人「KyoHA（京都ヒューマノイドアソシエーション）」に弊社も参画いたしました。



<新団体設立の背景>

近年、米国の巨大テック企業や、中国のIT・EV・ロボット企業を中心に、ヒューマノイドロボット開発が急速に進展しています。日本はかつてのロボット先進国としての存在感を示していくかなければなりません。加えて、日本国内では自然災害や労働力不足といった社会課題が深刻化しており、ロボティクス技術への期待が高まっています。特に、人間に近い動作性能を持ち、極限環境下でも活動可能な「ヒューマノイドロボット」は、次世代の機械システムとして注目されています。しかし、AI やソフトウェアの進化が進む中で、ハードウェア領域における国産開発体制や産業としての統合的な取り組みは未整備の状況です。こうした課題を打破すべく、モノづくりの都・京都にて、日本の技術力を結集する新たな産業連携の枠組みとして「KyoHA」が設立されました。

<SEMI-e 深セン国際半導体展示会に出展>

- ・2025年9月9日から12日まで深セン国際コンベンション展示センター(宝安新ホール)で開催されたSEMI-e 深セン国際半導体展示会に出展しました。この展示会は、中国の集積回路産業の技術展示として、中国国际光電博覽会(CIOE 中国光電博覽会)と同時に開催され、「光電+半導体」の産業相乗効果を形成する大規模な展示会でした。その中で弊社の球面軸受(SRJ)とクサビステージに多くの興味をいただきました



<ヒーハイスト在籍社員が秋田県初で唯一の「特定技能2号」に登録>

- ・2025年10月5日に、2025年6月末時点の各都道府県における特定技能2号在留外国人数の公表がありました。当社で初めて在留資格「特定技能2号」を登録したベトナム国籍の在籍社員が、秋田県で全分野を通じて初めての特定技能2号登録となりました。※2025年6月末時点で秋田県内唯一の2号登録となります。
- ・当社は、引き続き公私ともにベトナム人材を引っ張っていくリーダーとして、更なる活躍を期待し、企業としても共に向かって参ります。

【第5表】 都道府県・市区町村別 特定産業分野別 特定技能2号在留外国人数

地域コード	都道府県	市区町村1	総数	ビルクリー ニング分野	工業製品 製造分野	建設分野	造船・船用 工業分野	自動車整 備分野	航空分野	宿泊分野	農業分野	漁業分野	飲食料品 製造分野	外食業分 野
				[令和7年6月末現在]										
05000	秋 田 県		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

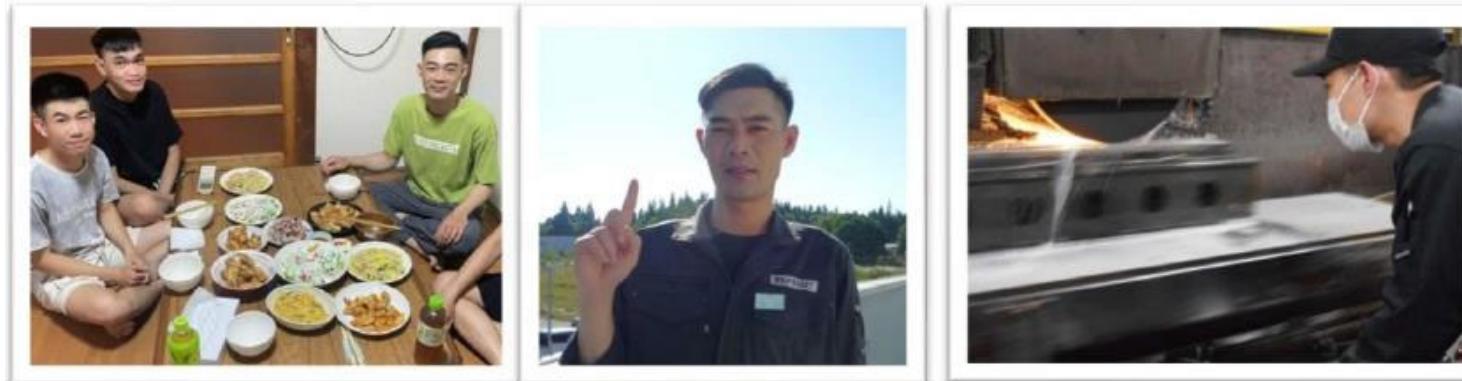
注1) 本表の数値は速報値である。

注2) 本表の都道府県・市区町村は在留外国人の居住地の都道府県・市區町村である。

注3) 特定技能2号外国人が居住している都道府県・市區町村のみ記載している。

注4) 令和7年6月末時点のデータに基づいて作成したものであり、今後数値が変わることがある。

参照：出入国在籍管理庁ホームページ“特定技能在留外国人数の公表等”
https://www.moj.go.jp/isa/applications/ssw/nyuukokukanri07_00215.html
 令和7年6月末 特定技能2号在留外国人数 第5表 (Excel) (参照日2025-10-03)



5. 參考資料

社名	ヒーハイスト株式会社
本社	〒350-1151 埼玉県川越市今福580番地1
工場	埼玉工場 〒350-1151 埼玉県川越市今福580番地1 [敷地面積16,677m ² 建物面積7,997m ²] TEL : 049-273-7000 (代表) / FAX : 049-273-7001 秋田工場 〒010-1653 秋田県秋田市豊岩小山字下田454 (豊岩工業団地内) [敷地面積36,292m ² 建物面積4,525m ²] TEL : 018-828-0111 / FAX : 018-828-1192
海外	赫菲(上海)軸承商貿有限公司 HEPHAIST (SHANGHAI) Co., Ltd. 赫菲(上海)軸承商貿有限公司 蘇州分公司 HEPHAIST (SHANGHAI) Co., Ltd. Suzhou branch
資本金	732,552,000円 (2025年3月)
上場株式市場	東京証券取引所スタンダード (証券コード : 6433)
発行済株式数	6,316,700株
代表者	代表取締役社長 尾崎 浩太
設立	1962年 (昭和37年) 7月19日

直動軸受（円筒） 製品

世界で最初にリニアボールブッシュのミニチュアシリーズの量産を開始したリニアボールブッシュパイオニアメーカーであるヒーハイスト製リニアボールブッシュは、コンパクトで使いやすく高精度・高品質リニアモーションベアリングで、メカトロニクスシステムにとって高速化・小型化、省エネルギー化への欠かすことの出来ない重要な機械要素です。



リニアボールブッシュ

シャフトホルダ

ミニチュアボールねじ
スライド(BSSP)

L M H B

ハウジングに圧入組付けするリニアブッシュ



軽量化リニアボールブッシュLMHB

ボールスライドユニット

ボールの転がり運動を利用した直線運動機構であり、軸と外筒の転走（送）溝の室内により、ラジアル荷重だけでなく、回転トルクを受けることができます。トルクを伝達しながら直線運動をする機構に最適で、搬送装置やロボットなど幅広い分野で使用されています。



有限ストロークボールスライド



回転ベアリング一体型ボールスライドユニット（有限ストローク）

S G I L

リニアボールブッシュの機構に重りを付けてルアーに内蔵し、慣性により飛距離を伸ばせる機構



ヒーハイストは、未来を担う若手ドライバーの支援を通じた
モータースポーツ振興を目的に、ドライバーの育成や挑戦をサポート・応援しています。



ヒーハイストは、1962年創業以来モータースポーツ向けエンジンパーツの
製造に深く関わってまいりました。

0.1秒の速さを競うモータースポーツに提供するエンジンパーツは技術的
要求が高く、その部品製造には独自のノウハウと高度な加工技術が要求さ
れます。

モータースポーツの発展とともに変化する技術的 requirement に真摯に取り組んだ
ことにより、一つひとつの高度な技術を確実に蓄積することができました。

この培った高度な技術と永年にわたるエンジンパーツの製造から学んだ
「モノづくり精神」は今日の独創的な 製品を生みだす源となっています。

モータースポーツの発展とともに歩んできた当社は、「世界に通用する
ドライバーの育成」を掲げ、Hondaの若手ドライバー育成プログラム
に心より賛同し、「ホンダ・フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト」を
応援いたします。

ヒーハイスト株式会社
代表取締役社長 尾崎 浩太

高精度位置決めステージ

ヒーハイストの高精度位置決めステージは、長年培ってきた直動案内軸受及び、精密機器部品の加工技術に、独創的な設計を基に開発された、これまでに類例を見ない数々の特長を備えた高精度位置決めステージです。



XYθステージ



超精密ステージ



Zチルトステージ



Z軸ステージ

球面軸受

パラレルメカニズムにとって不可欠な多自由度のジョイントは、これまで回転ジョイントの組み合わせによって2~3自由度を得ていました。しかしこれらのジョイントは構造上複雑になり、大きくなってしまうという特長がありました。また多自由度を持つ滑りの球面軸受もありますが、大きな摩擦抵抗と内部隙間がありました。ヒーハイストではこれらの課題を解決すべく転がりによる球面軸受を開発しました。



球面軸受使用例



4軸モーションシミュレーターに使用される球面軸受 SRJ



出所：(株)ゼンカイレーシング提供資料 4軸モーションシミュレーターより撮影



環境 SDGs	1. 太陽光発電の設置（年間発電量約162,000kwh、CO ₂ 排出量年間約60.65tの削減を見込む） 2. 廃棄物を固形燃料へ再利用「RPF」（Refuse Paper & Plastic Fuel） 3. フードドライブ事業参加（食品廃棄ロスを減らし、子ども食堂へ寄付） 4. 国際協力活動支援（チャイルド・スポンサーシップ）（貧困に苦しむ支援地域の環境整備を支援） 5. 紙のエコ化（卵の殻のリサイクル） エコペーパー「CaMISHELL」
--------------------	---

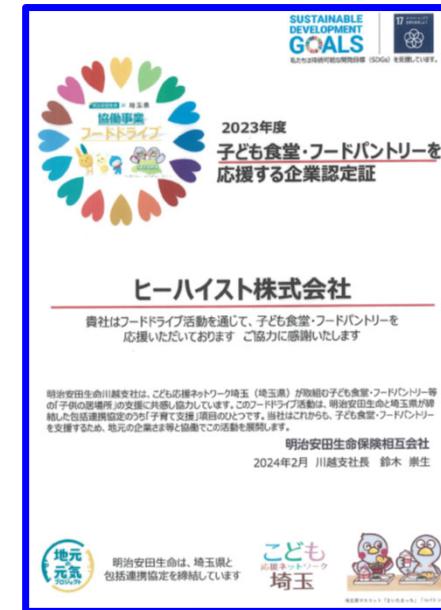
1. 太陽光発電



2. 廃棄物を固形燃料へ
「RPF」



3. フードドライブ事業



4. 国際協力活動支援
(チャイルド・スポンサーシップ)

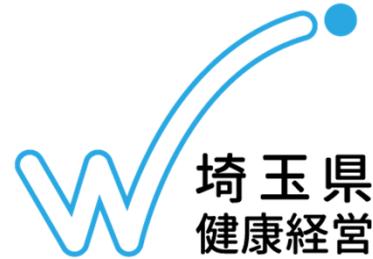


5. 紙のエコ化
(卵の殻のリサイクル)
「CaMISHELL」

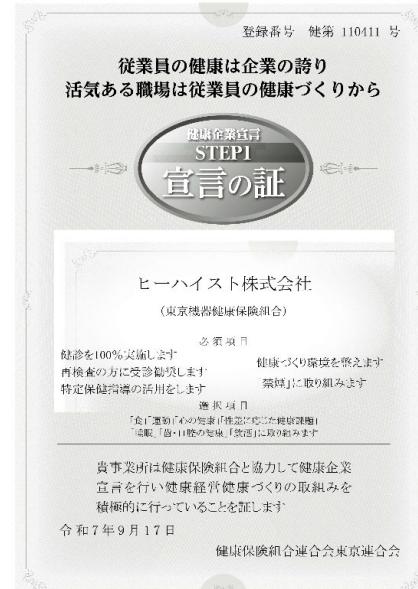


健康経営	<ol style="list-style-type: none">埼玉県健康経営認定制度（従業員等の健康に配慮した取り組み）健康企業宣言（健康経営健康づくりの取り組み）
------	--

1. 埼玉県健康経営認定制度



2. 健康企業宣言



人的資本経営	1. 獎学金返還支援手当の導入 2. 持株会活性化（奨励金還元率UP 50%へ） 3. 秋田市元気な子どものまちづくり企業認定
取引先関係	※. パートナーシップ構築宣言で協力会社への対応 支払サイトの短縮化（手形60日に変更）

1. 獨学金返還支援制度の導入
業務に集中して安心して長く働ける環境を
整え、人材の確保と定着をより一層図って
参ります。

2. 持株会活性化
・奨励金還元率を従来の5%から50%に増額
・社員と会社とのエンゲージメント向上を高め、
当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の
向上に努めて参ります。

※ パートナーシップ構築宣言で協力会社への対応
・支払サイトの短縮化（手形60日に変更）
・サプライチェーンの取引先や価値創造を図る事業者の皆様との連携による相互付加価値向上
及び、共存共栄を進めることで、新たなパートナーシップの構築を目指します。

6. 今後の展開

経営ビジョン

自動化・省力化の機械要素部品 「リニアブッシュ・アジアNo.1」

↑上記のビジョンに向けて、これまで準備や努力はしてきた。
需要回復を待たされている今は、このビジョンだけではなく、新たなビジョンの追加が必要

戦略

フランジタイプ増産及び拡販によりシェア拡大を目指す

2020～2023 「設備投資額>減価償却費」

2025～ スクラップ・アンド・ビルトで利益改善

2026～ 事業領域の整理のページで説明

【直動機器】

調整局面 ⇒ 想定以上に長期化

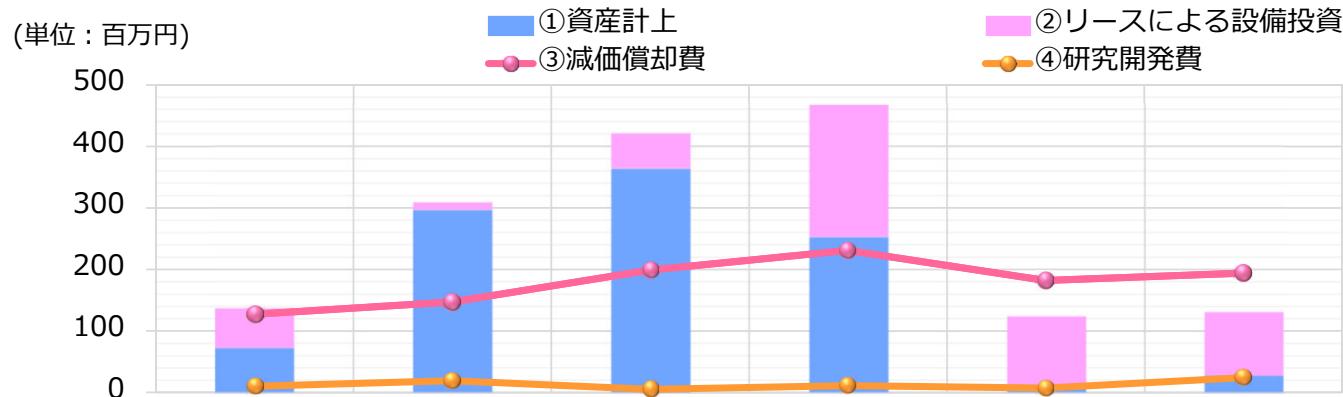
【精密部品加工】

25年後半から繁忙予想 ⇒ レギュレーション変更に伴う
スケジュールの遅れ

【ユニット】

業界唯一の球面軸受は中国市場で需要増 ⇒ ほぼ計画通り
ステージ需要回復傾向 ⇒ 微増

2023年3月期の資産計上(その他)に、工場A棟198百万円が含まれております。
減価償却費は、機械設備は12年定額償却、建物は30年定額償却しております。
研究開発費は、主に社内の自動化生産に向けた改善・開発の取り組みとなっております。



	2021/3月期	2022/3月期	2023/3月期	2024/3月期	2025/3月期	2026/3月期予算
①+②設備投資合計	138	310	422	468	124	131
①- 1 資産計上（機械）	44	259	296	27	3	16
①- 2 資産計上（その他）	29	38	68	226	5	12
②リースによる設備投資	64	12	57	215	116	103
(単位：百万円)						
③減価償却費	127	147	199	231	182	194
④研究開発費	10	19	5	11	7	24

経営方針 persist

persistは、カタカナでパーシスト

「貫いてやり抜く」「持続する」「固辞する」「残存する」という意味
この単語は、何かを続ける状況や、困難な状況においてもあきらめずに
努力を続けることを表現

特に変化や結果がすぐに見えない時でも、目標に向かって進み続ける姿勢を強調

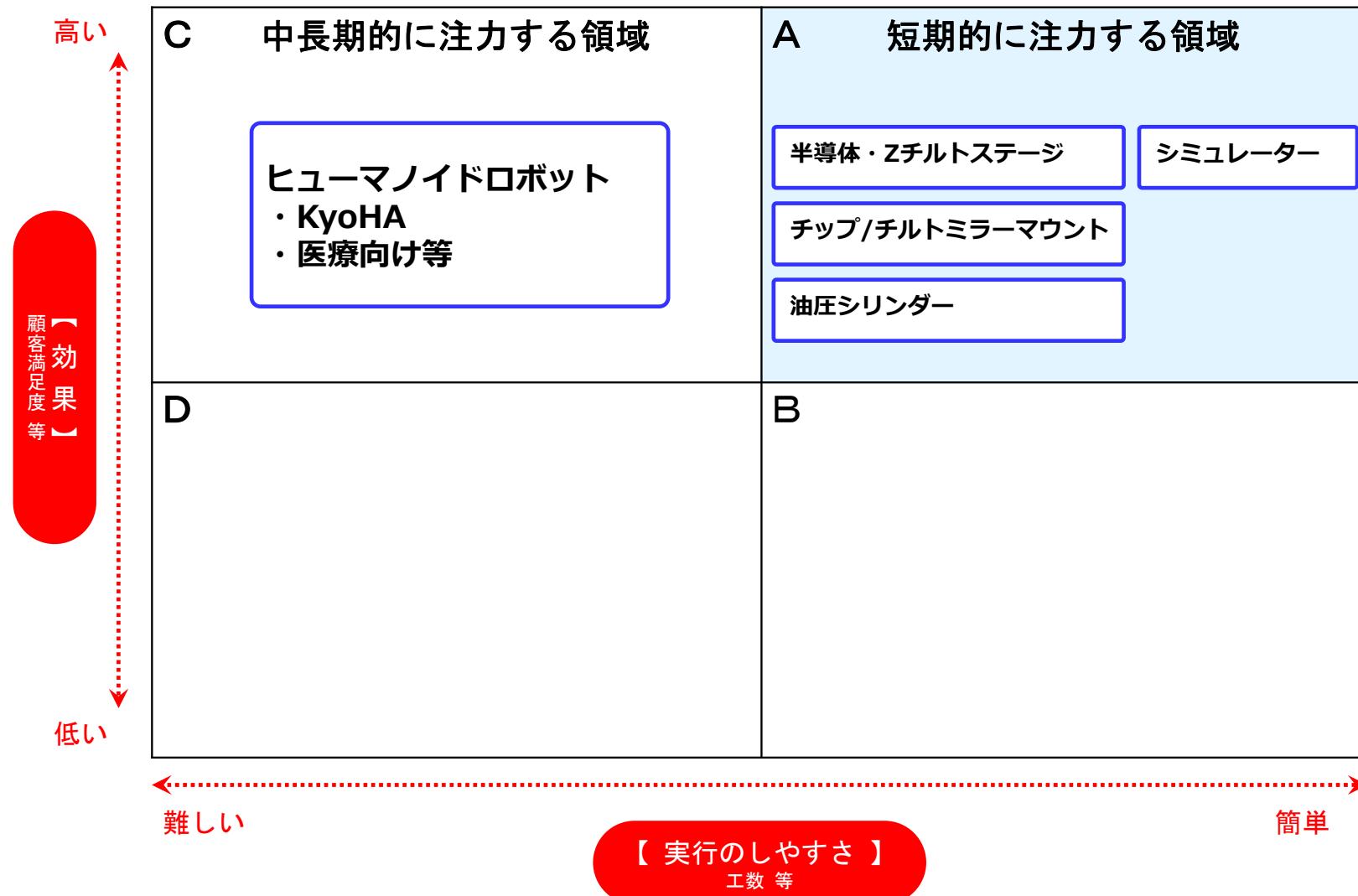
機械の力を「機力」、人のマンパワー・技術力を「術力」と呼ぶなら、
その両方が揃っていないと、生産力は機能しない
現在、「機力」と「術力」がバランスよく揃い始めている



➢既存のP、又はMのどちらかのシナジーを活用することでリスクを低減する

➢「はやきこと風の如く」すべてにおいてスピード感をもって実行していく





2024年12月時点

厳格化された東証からの要請「流通株式時価総額」
をクリアするために、株価や株主数等への対策が課題
ただし、これらは自社の努力だけではコントロールできず、
バックアッププランが必要となっている
今後はプランの決議と実行となる

2025年6月時点

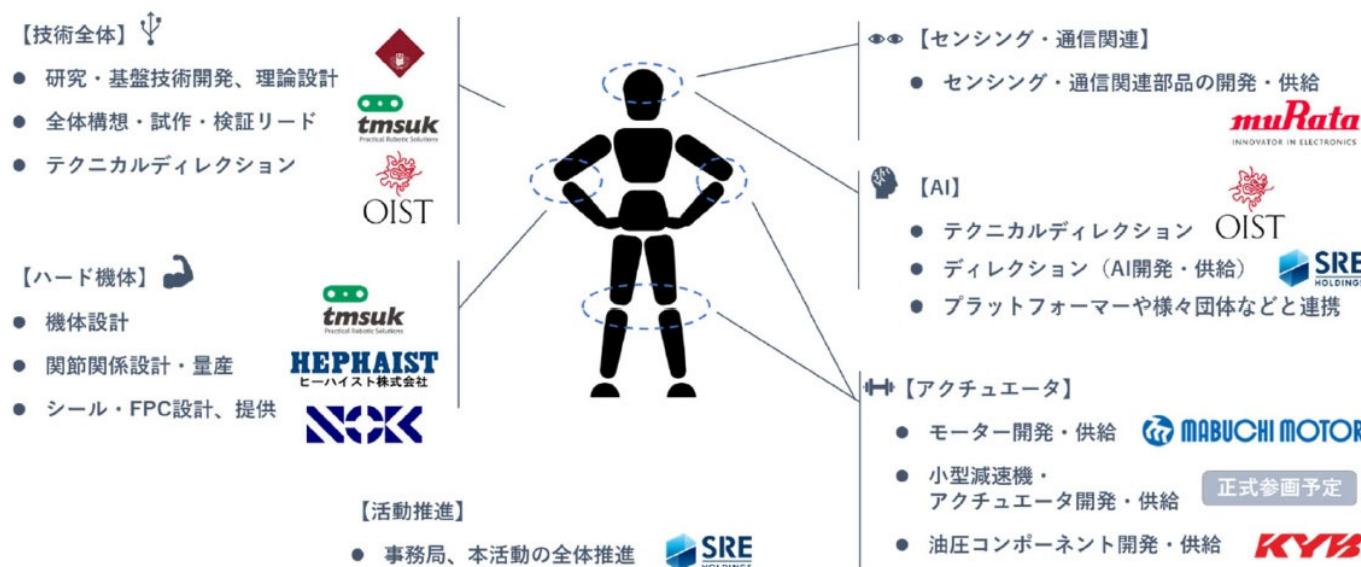
優待の実施により、
多くの個人投資家に株式を保有してもらい、
結果的に上場維持基準を達成できたことに感謝しつつ、
本来は1株あたりの利益を上げて
配当の形で還元を行うことが望ましい
バランスを考えながら、より良いあり方を検討していく

2025年11月時点

株主優待内容変更

<「KyoHA（京都ヒューマノイドアソシエーション）」に参画>

- 2025年10月2日に発表されました、早稲田大学、株式会社テムザック、株式会社村田製作所、SRE ホールディングス 株式会社が、日本のヒューマノイドロボット産業の再興を目指す新団体として設立した一般社団法人「KyoHA（京都ヒューマノイドアソシエーション）」に弊社も参画いたしました。



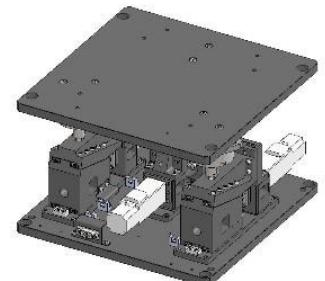
<新団体設立の背景>

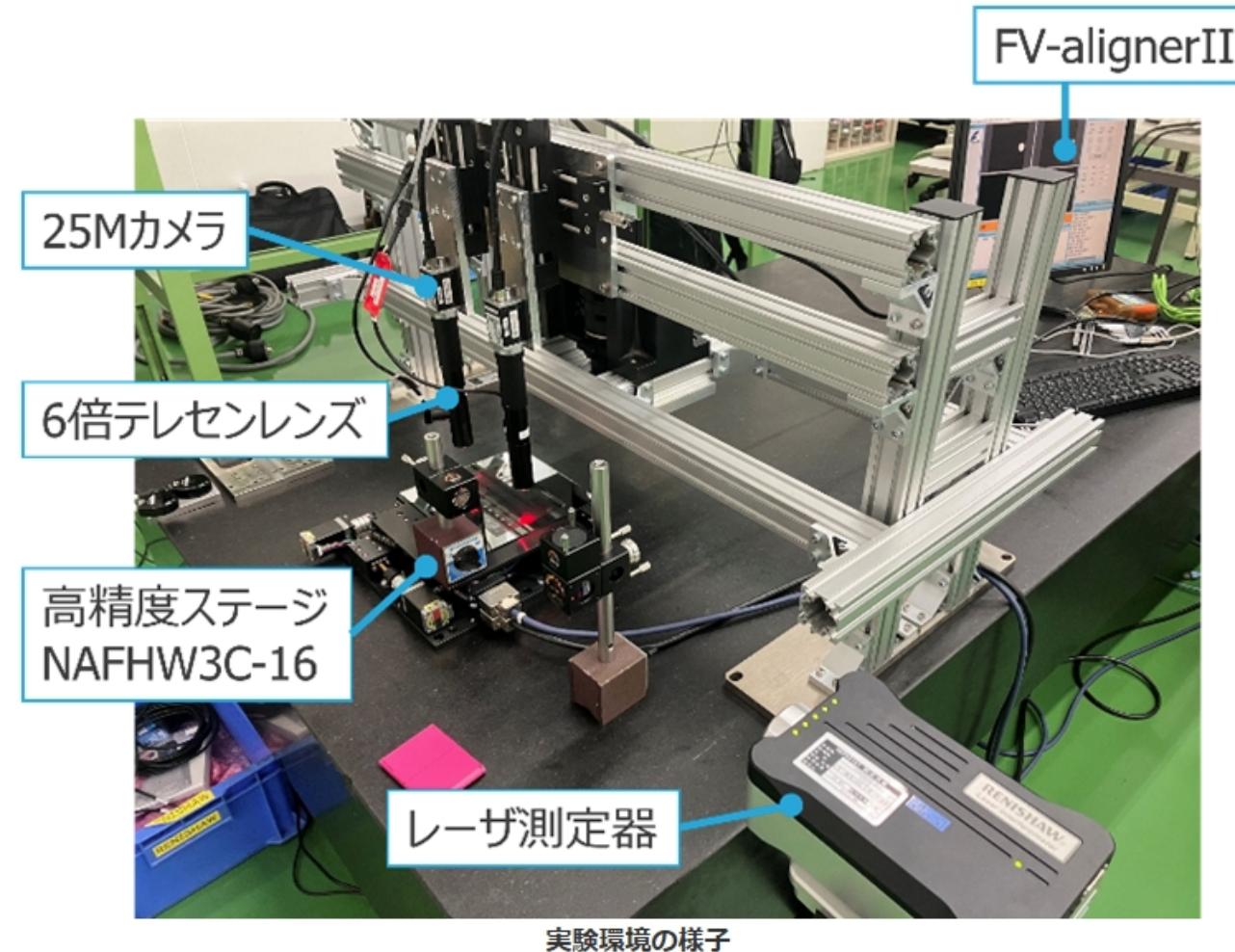
近年、米国の巨大テック企業や、中国のIT・EV・ロボット企業を中心に、ヒューマノイドロボット開発が急速に進展しています。日本はかつてのロボット先進国としての存在感を示していくかなければなりません。加えて、日本国内では自然災害や労働力不足といった社会課題が深刻化しており、ロボティクス技術への期待が高まっています。特に、人間に近い動作性能を持ち、極限環境下でも活動可能な「ヒューマノイドロボット」は、次世代の機械システムとして注目されています。しかし、AI やソフトウェアの進化が進む中で、ハードウェア領域における国産開発体制や産業としての統合的な取り組みは未整備の状況です。こうした課題を打破すべく、モノづくりの都・京都にて、日本の技術力を結集する新たな産業連携の枠組みとして「KyoHA」が設立されました。

Zチルトステージとは、
上下面の角度合わせ、平行出しを行うステージ

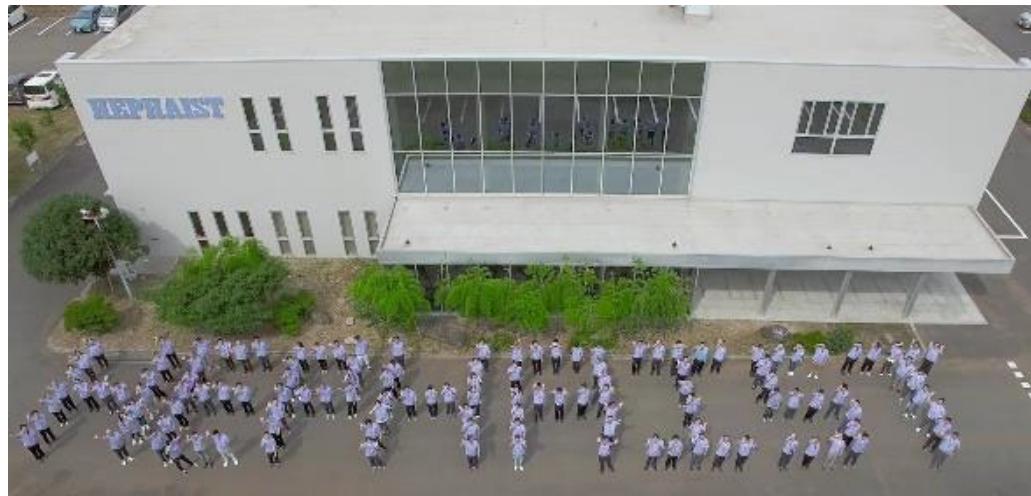
使用される用途としては、半導体や液晶の露光、
導通検査（ダイアタッチ）、実装（ダイボンダー）、
平坦度計測など

求められる機能は、サブミクロン精度で特に追従性、
また装置高さは可能な限り低いことが求められる。





<https://www.inrevium.com/pickup/high-precision-positioning/>



ヒーハイスト株式会社

担当窓口 : 取締役 管理部長 佐々木 宏行
管理部 総務課長 大松 勝

TEL : 049-273-7000

FAX : 049-273-7001

E-mail : info1@hephaist.co.jp

URL : <https://www.hephaist.co.jp/>

この資料に掲載しております当社の計画及び業績の見通し、戦略などは、発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。あくまでも将来の予測であり、様々なリスクや不確定要素により、実際の業績と大きく異なる可能性がございますことを、あらかじめご承知置きくださいますようお願い申し上げます。